



相模女子大学日本学国際研究所と学ぶ・知る・考える vol.6

スクリーンの裏側

—助監督から監督へ・金子修介の軌跡

講師

金子 修介

相模女子大学客員教授・映画監督



2025.

7.6.SUN 14:00～15:30 (開場 13:40～)
紀伊國屋書店新宿本店 3階 アカデミック・ラウンジ

先着 25 名

着席での参加を希望される方は、事前に二次元コードより
お申し込みをお願いいたします。

(事前申込みなしのお客様も立ち見にてご参加いただけますが、会場の広さの
都合上、ご参加いただけない場合もございます。予めご了承ください。)

参加無料・入退場自由



スクリーンの裏側 一助監督から監督へ・金子修介の軌跡

ロマンポルノ、『1999年の夏休み』『毎日が夏休み』、平成ガメラ三部作とGMKゴジラ、『デスノート』『ゴールド・ボーイ』など、長年にわたって数々の秀作・話題作を創作してきた金子修介監督が、映画を志した若き日（1978年）から社会的・文化的な環境が激変する中で、どのように映画作りに向き合ってきたのか。自身の出発点を振り返った新著『無能助監督日記』（KADOKAWA）のエピソードや、実際の映画制作の経験談を交えながら、映画とその時代について思いのたけを語ります。



(C) 2001 TOHO PICTURES, INC. TM & (C) 2001 TOHO CO., LTD.

講師

金子 修介

相模女子大学客員教授・映画監督



©2024 GOLD BOY

相模女子大学客員教授。映画監督。

監督作品に『毎日が夏休み』、平成ガメラ三部作、『デスノート』、『百年の時計』ほか、ヒット作・話題作多数。

2022年、『信虎』（宮下玄霸と共同監督）でマドリード国際映画祭外国語映画部門 最優秀監督受賞。



「無能助監督日記」（金子修介著／KADOKAWA刊）

会場・アクセス

紀伊國屋新宿本店 3階 アカデミック・ラウンジ

JR「新宿」駅 東口より 徒歩3分

地下鉄丸ノ内線・副都心線・都営新宿線

「新宿三丁目」駅 B7出口より 徒歩1分（地下通路より直結）



相模女子大学日本学国際研究所とは…

相模女子大学は、学術研究の拡充と活性化、さらにその成果を国内外に発信する拠点として、2024年4月に相模女子大学日本学国際研究所を開設しました。

本学には人文科学系・社会科学系・自然科学系の教員が在籍し、その研究領域も多岐にわたっており、幅広い研究が豊富に蓄積されています。異なる観点を持つ研究者を多く擁した本学ならではの特性を活かしながら、「日本」を海外からの視点を交えて見つめることで、日本研究の新たな意義を見つけ、国際的な研究を推進します。同時に、研究成果を世界にあまねく発信することによって、本学が注力してきた社会貢献活動にも寄与できると考えます。

世界の側に立った視点で日本を見つめ、日本の立場に立っていては見えない日本を見つける、本研究所の成果にどうぞご期待ください。

相模女子大学日本学国際研究所 siijs@mail2.sagami-wu.ac.jp

相模女子大学 <https://www.sagami-wu.ac.jp/125th/>

研究所
HP



大学
HP

